

館長室だより ③

知と交流しよう

図書館長 江澤聖子

能登半島地震からの復興が待たれるなか、是非訪れたいと考えている図書館のことが頭に浮かんだ。新しい石川県立図書館である。構想の策定から落成まで約6年間の年月を経て、2022年金沢市小立野に移転、開館した。「加賀は天下の書府」ともいわれ、加賀藩と藩主前田家より伝わる数々の資料、石川県の郷土史家である森田柿園の郷土史料（森田文庫）など多くの貴重資料を所蔵し、明治12年の最初の開館から100年以上もの歴史を誇る県立図書館である。

かつて加賀藩では文芸や学問が推奨され、加賀友禅、輪島塗、九谷焼などの工芸が発達し、また金沢三文豪として名高い泉鏡花、室生犀星、徳田秋聲が誕生した。県立図書館は「書籍や資料が並び静かな場所（書庫）」というそれまでの図書館の固定概念を突き破った、すなわち現代情報文化の発展への寄与という側面からの新しいコンセプトを持つ知的空間である。

蔵書数約100万冊、閲覧スペース約500席と規模が大きく、中心を囲むように円環状の書棚が並び華麗なデザインと個性的なインテリアの配置が新鮮な驚きだ。また講演会やイベントが開催される文化交流の為のエリア、県文化を彩る工芸品の展示、研修室、食文

化やモノづくり体験スペース、カフェや屋外広場など、子どもから研究者まで自由に集える交流の場である。

この図書館の情報に関連して、2019年に公開されたドキュメンタリー映画〈ニューヨーク公共図書館 エクス・リプリス〉を観た。美しい古典様式建築の本館と92の分館からなる、まさに世界最大級の知の宝庫として、市民の知的な寛ぎの場、また芸術家達の模索と発露の舞台となっている。

この映画で興味深いのは、その営みの内側にスポットライトを当てていることである。司書の豊かな知識と的確なアドバイス、ボランティアの活躍ぶり、市の補助金と民間からの寄付金をいかに駆使して、図書館が持つべき社会的責任を全うし、日進月歩で進歩するデジタル社会への対応をどのように次世代へ繋いでいくのか。またその対応技術を全ての市民にどのように普及させるのか。それらの手段について、戦略会議で幹部が綿密に議論を重ねていく様子が描かれている。

『図書館が存在する目的とはその先にある社会の在り方を示すこと』の言葉が胸を刺す。



Parlando ばるらんど

2023 総目次 318 ~ 320

表紙：中林 美月（武蔵野美術大学芸術文化学科2年）

•318

【巻頭エッセイ】あなたの音が伝えるもの… 江澤聖子	●表紙
Welcome to our Library	●2 ~ 3
【卒論報告】カール・チェルニーのピアノ・ソナタ作曲実践 -『実践的作曲教程』作品600と《ピアノ・ソナタ第9番》 作品145に基づいて-… 秋山 明	●4 ~ 5
こんなに便利! 図書館のデジタルサービス	●6
【私のおすすめ】…山本奈央	●7
2022年度ばるらんど総目次	●7
Information	●8

•319

【巻頭エッセイ】宝物を探して分け入る森… 三宅博子	●表紙
Library Data 2022	●2 ~ 5
館長室だより①… 図書館長 江澤聖子	●6
資料の部屋⑮… 二塚恵里	●6
【私のおすすめ】… 館澤美咲	●7
ニューフェイス2023… 吉田直輝	●7
Information	●8

•320

【巻頭エッセイ】デジタル社会の中での私たちの生活と 学び方の変化… 大和田智彦	●表紙
【私のおすすめスペシャル】… 図書館委員（青木高志、伊藤仁美、 加納悦子、河原忠之、末松淑美、 中田朱美、渡辺俊哉）	●2 ~ 4
館長室だより②… 図書館長 江澤聖子	●5
資料の部屋⑯… 撰正弘	●5
良い音を、図書館で	●6
資料の館⑳… 三宅巖	●7
Information	●8

ばるらんどはリポジトリで
全文を公開しています。(2007年以降)

